



カラスのお話

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ 木下 卓也

今回のテーマは空飛ぶ黒いやつ、そう「カラス」です。日本に分布しているのは5種で、農作物に被害を出すカラスは、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種です。この2種は見た目がよく似ていますが、頭の形や鳴声、行動などが異なります。(図参照)

カラスは2歳ごろから繁殖します。つがいになった後、縄張りに入ってくる他のカラスや動物に神経質で攻撃的となります。人間が蹴られたり、突かれたりすることもあります。

雑食性で、野菜や果実、昆虫など様々なものを食べます。中でもマヨネーズやフライドチキンなどの油分の多いものは大好物。人間の食べ残しは最高のごちそうです。そしてカラスはほかの鳥よりも「まとめ食い」ができ、後で吐き出してぼちぼち食べるのです。被害量が多い原因は、こうしたカラスの特殊能力によります。

また、電線に逆さまにぶら下がったり、滑り台を滑ったりなど、遊んでいるとしか思えないような行動をとることもあります。農作物被害の一部は食べるためではなく、遊びでやっているようなものもあります。(写真)

では、どうやってカラスの被害を防ぐのか？

第一に、来てほしくない場所の近くに生ゴミや野菜くずを捨てないことです。捨てるならコンポストを利用し、カラスに食べられないようにしましょう。これは農家だけでなく、一般の家庭でも同様の取組が必要です。

次に作物を囲うことです。作物を守るのに最も効果的なのは「防鳥網」ですが、設置・撤収の手間やコストを考えると、カラスが嫌う「テグス」を活用すると良いでしょう。作物の上にテグスを1m程度の間隔で張り巡らします。ハシボソガラス対策として横から侵入されないようにしておけば完璧です。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の「畑作テグス君」(右の二次元コード)が参考になると思います。

よく見かける追い払いのためのCD、吹き流し、かかし、爆音器、カラスの死体等はすぐに慣れてしまいます。カラスの警戒心を逆に利用し、これらをこまめに設置したり、片づけたりすれば、効果が少し持続します。

ハシブトガラス



ハシボソガラス



太く湾曲している	くちばし	細くまっすぐしている
くちばしから額に向かって段差があり、額が出張った頭	頭部	くちばしから額に向かって段差がなく、まっすぐした頭
カア、カアと澄んだ声	鳴き声	ガア、ガアと濁った声
跳ねることが多く、樹上にいることが多い	行動	二足で歩くことが多く、よく地上に降りる

(図:木下 卓也)



カラスの被害(食べたり、突いて落としたり...)



畑作テグス君

カラスと知恵比べ、
私たち実施隊でもお力になりますので、
お気軽にお問合せください。

日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399



表紙写真

タイトル:「飛行」

撮影者:日野町 松本 利秋氏(写真会ひの)

撮影者コメント:毎年、日野町根雨の日野川には北からオシドリ(約1,000羽)が飛来し、11月から3月まで観察小屋で間近に見ることができます。オシドリの姿は美しく、見る者に心安らくひと時を与えてくれます。この写真は、寒い日の朝、太陽の光が日野川に射してきた頃に撮影。飛び立つオシドリの美しい躍動感が溢れています。